

## プロジェクトX的に講話

先日、養護学校で先生方の校内研修会で講演の機会を得た。

テーマはNHK的にいえば、「プロジェクトX - 病虚弱養護学校誕生秘話 - 」か、「その時、歴史は動いた - 病虚弱養護学校誕生の人間ドラマ - 」ということになるだろうか。

40年ほど前までは、病気で長期入院中の子ども達の教育権は保障されていなかった。時の院長は、親達と共に立ち上がり、現在の教育権保障、育成医療、筋ジスの措置入院等の道を切り開いた様子をエピソードを主に「人間ドラマ」的に話した。エピソードとして、国の施設である国立療養所の病院長でありながら、親と共に時の厚生省にタスキをかけて陳情に行き、また、当然当時は校舎もなかったので病室を教室を兼ねられるように病室の扉を黒板に利用できるような作ったこと、等々。

私とすれば、単に歴史を話すつもりではなく、自分の立場、身分等を省みず目の前にいる子ども達の現実から、法や規則に拘らず、何が必要かを訴え続け、法等の改正の実現にチャレンジした元院長の姿を借りて、次のようなことを語ったつもりである。

今我々はあまりにも安易に「規則がこうだから……」という言葉だけで、障害児や病弱児の教育に枠をはめていないか。枠をはめているのは、規則でなく教育専門家といわれる我々の心の中にあるのでないか。規則も人間が作ったものなら、子どもの現実の姿から、みんなの智恵を結集して、その規則を変えて行く勇気を持つてはいないか。そのチャレンジ精神の燃える教師の姿こそ、社会（行政）に共感を呼び、反省を促し、また、子ども達に生きることとはどういうことかを伝えることのできる教育の真髄があるのでないか。等々。

さて、何人の先生にそれが伝わただろうか。うまく伝えられなかったとしたら、それは私の語り継ぐ真剣さがまだ足りないということに他ならないということだろう。

私の元に出入りしている大学院生が、この講演をビデオ（約1時間15分）に撮ってくれました。もし、「暇つぶしに、拝聴してやるか！」という寛大な心のお持ちの方には、お貸しします。

（2002年02月24日 記）